



喪失感の中で“心”を見つめ直す

仮住まいの我が家の窓いっぱいには常とは違う風景が広がる。見遙かす目線の先に愛鷹山、その上には絵に描いたような入道雲の峰。左に目を転ずれば雲を纏って落着き払った青い富士の頂がある。

昨日何があったのか?昨日と今日の境は?生活感の無いウスポンヤリした思考が停滞していて、明日に続く時間が見当たらない。夏の終わりのような虚脱感で季節の巡りすら覚束ない。

6月26日、自家からの失火により焼け出された。近隣への類焼は免れたものの多大な恐怖、ご迷惑、ご心配をかけたしまった。

大切な公の紙面をお借りして、私事のお詫びや弁明もあったものじゃないけれど、私はこんなに大勢の人たちと手を繋いで戴いてたんだ……。

親類縁者にも勝るご厚情をお寄せ下さった皆さまへの感謝の証しに、再生へのスタートに立つ。

初体験の集合住宅暮らし、友人の大勢から「こんなの要る?」「これ遣って」「今畑で採れたの持って来た」「ねえ手、足りてる?」矢継ぎ早の支援に只只有難く、家人と涙ぐむばかり……。

家電売場に居るような真新しい生活必需品達にワッと取り巻かれる居心地の悪さ、右から左に必要なものを買ひ揃えられる便利さが逆に疎ましい。

日が経つにつれて、決定的な喪失感はその心を鍛えることに気がついた。当たり前のように存在するものの価値観を見つめ直すことが出来るようになり、背中でもの思う事はやめ、支えて下さる皆様の真心に応えて、半世紀も住み慣れた元の地へ再び根を下ろす。子・孫と共に。

街は今、“富士山まつり”真っ最中!!東日本の被災、当地の震災にも負けず、ご神火まつりに、宮おどりに、夏山富士の開山を祝い、祈りをこめて街中あげて舞い踊る。ホラ、ワッショイ、ショイ。 K・H



神田川を逆のぼる御神火みこし

富士山まつり

8月～9月のイベント

8/6(土)

浅間大社
市街地

富士山御神火まつり

～燃える神輿を担ぐ勇壮なまつり～

16時 式典開始 / 20時 大人みこし神田川昇り

富士山御神火まつり実行委員会 Tel:0544-22-1155

8/7(日)

浅間大社
目抜き通り

第20回宮おどり大会

～商店街メインストリートを踊る～

15:50～小中学生 17:55～大人

宮おどり大会実行委員会 Tel:0544-26-3101

8/5(金)
～7(日)

本町商店街

七夕まつり

マイロード本町商店街 Tel:0544-26-3289

8/21(日)

陣馬の滝

陣馬の滝まつり

～鎌倉時代の往時を偲ぶ～

午前10時～午後2時 駐車場は井之頭小学校グラウンド

- ・子供たちによる武者行列
- ・ニジマスのつかみどり大会
- ・陣馬の滝太鼓など

9/15(木)
～20(火)

まちなかアートギャラリー

～商店街でのアートギャラリー展～

9/24(土)

白系の滝

白系の滝灯回廊

18時～21時(雨天中止)

富士の巻狩り祭り実行委員会 Tel:0544-27-5240



第23代ミス富士山決定!

ミス富士山グランプリ
井出由佳さん

ミス富士山
秋山優海美さん

第23回《ミス富士山》コンテスト - 選者の目 -

“いづれがアヤメ、カキツバタ…”富士宮の女性、近年なかなか洗練されて、知性派美人の応募が目立つ。積極的に自身をPRし、応答に淀みなく…、と言って玄人臭くはないのが好感。(選者泣かせ)

各々が特技を持ち合わせ、語学も堪能で一地域の“ミス”さんではなく、その名の通り“富士山”を背負って、静岡県や日本全国、また国際的にも活躍が期待される「観光大使」

容姿は無論のこと、内から滲み出る内面美、磨けばどれ程真価を発揮することだろう。原石を選び出す重責と彼女たちの成長を密かに見守る楽しみも味わえる選者である。井出さん・秋山さん、存分のご活躍を。 K-H

この人

塩川 勇さん
杉田在住 木彫家



飛騨の匠、屋台彫刻に魅了され、会社勤めのかたわら独学の木彫制作に没頭し、30年以上技術の研鑽を積み、退職してからは本格的な木彫り職人として腕を高めた。

地域の祭り屋台を飾る木彫り等を手掛けたら、寺社の彫刻をはじめ、有名な彫刻では、清水三保の御穂神社の左甚五郎の神馬の彫刻を手掛ける。

杉田の子安神社の犬の彫刻、旧富士川町某氏邸宅の門の鼠の彫刻等まったく今にも動

き出しそうなものばかりである。仕事の合間に手掛けた犬、猫、ふくろうなど可愛らしい動物の表情は何とも言えない。ケヤキの木目をうまく使い、日展を初め各種の工芸展で入選入賞を果たしている。

市内においても何度か個展も開いているのでご存知の方も多いと思います。また、毎年街角アートギャラリーでも展示しています。現在、北山本門寺養仙坊の山門の彫刻を手掛けています。もうすぐ完成すると思いますので、ぜひ、ご覧になってください。 H・S

ガイドに帽子贈呈！

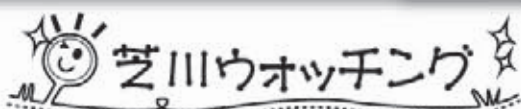
公益社団法人 富士宮市観光協会は、富士宮市観光ガイドボランティアの会、創立10周年記念として制帽を贈呈します。

ガイド、長年の懸案だったと聞くガイドハットは、シンボルカラー（青色）にマッチさせて、淡いブルーの小粋なもの。会名が刺繍された60個がまもなく会員の手元に届く。

富士宮の観光の水先案内人の諸氏諸嬢に気に入って貰えたら嬉しいのだが……。K・H



写真は贈呈の帽子です。



Vol.2

芝川の歴史ロマンを訪ねて たいらの これもち 平維盛の生涯(後編)

ここから維盛のその後が、種々語り継がれている。

一説には那智の滝に入水したことになるが、熊野の奥、色川郷で仮の館を作り召使の娘との間に男子2人をもうけ余生を送ったというもの。

二説には上稲子説である。富士宮市上野精進川、千光寺に重盛からの形見の持念仏、千手観音菩薩と維盛が高野山南谷東禅院の智覚上人から授受された毘沙門天像(空海上人作といわれる)があること。またこの地で元平家の領地であったこと。特に上稲子は小松殿の領地であったこと。父重盛の霊を弔うために僧になった筑後貞熊と富士川の戦いの折り遇って父縁のこの地にいること。平家の元家臣佐野主殿頭が住んでいたこと。等から稲子説が成り立つ。

三説は富士宮市上柚野、延命寺の開祖が重盛である縁から、寺から離れた処にそとと維盛の墓を作って祀ったのではないか。

以上の三つの説を考える時、維盛の落ちてきた里はロマンを秘めた二説ではないだろうか。

上稲子の碑のある処は元小松殿の領地である。峠を越えた上柚野延命寺が父重盛の開墓の寺で維盛の命日には文殊山と山の前の田に立つ墓前で法要が営まれている。

延命寺を北に精進川山本恵日山千光寺がある。ここは勿論平家の所領であるが、ここには維盛の落ち延びたといえる証拠の仏像があり、因みに千光寺の寺紋は平家と同じ「あげはの蝶」である。 H・S

